



# 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 ソーダニッカ株式会社

上場取引所 東

コード番号 8158 URL <https://www.sodanikka.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 長洲 崇彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員経理本部長 (氏名) 目崎 龍二

TEL 03-3245-1803

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	46,777	14.3	1,483	44.6	1,850	47.9	1,325	26.5
2022年3月期第3四半期	40,925		1,025	81.3	1,251	55.8	1,047	100.5

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,073百万円 (14.8%) 2022年3月期第3四半期 935百万円 (53.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	58.41	
2022年3月期第3四半期	44.90	

(注) 前第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2022年3月期第3四半期に係る売上高については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	71,463	25,663	35.9
2022年3月期	60,854	25,229	41.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 25,663百万円 2022年3月期 25,229百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		8.00		16.00	24.00
2023年3月期		13.00			
2023年3月期(予想)				13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

利益計画の達成状況を勘案し、当期においては特別配当の実施を検討しております。詳細につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	61,100	10.1	1,660	32.5	2,110	35.9	1,500	9.7	66.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	22,968,000 株	2022年3月期	23,968,000 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	269,156 株	2022年3月期	1,299,663 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	22,686,777 株	2022年3月期3Q	23,327,631 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの水際対策緩和や円安の進行を背景としてインバウンド需要が急回復するなど、消費関連の業況改善に後押しされる形で、持ち直しの基調が継続いたしました。一方で、世界的な金融引締めが続く中での海外経済の下振れリスクや、中国における感染拡大など、依然として景気の変動要因が残存いたしました。

当社グループに関係の深い化学産業を中心とする国内製造業につきましては、資源高や円安を背景とした原材料コストの増加が素材産業を中心に景況感を悪化させたほか、世界的な半導体需要の落ち込みにより電子部品・デバイスの減産が長期化するなど、一時的な減速感もみられました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては中期経営計画「Go forward STAGE2」の最終年度として、目標とする経営指標の継続的達成を目指すとともに、サステナビリティやガバナンスに関する取り組みの推進等も含め、更なる企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 46,777 百万円（前年同期比 14.3%増）、営業利益 1,483 百万円（同 44.6%増）、経常利益 1,850 百万円（同 47.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,325 百万円（同 26.5%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。また、各セグメントに属する商品群及び、主な構成要素を以下表に記載いたします。

表：各セグメントに属する商品群及び主な構成要素

セグメント	商品群等	主な構成要素
化学品事業	ソーダ関連薬品	か性ソーダ、塩酸等のソーダ工業に関する薬品
	その他の無機薬品	硫酸、アンモニア等のソーダ関連薬品以外の各種無機薬品
	有機薬品	溶剤、界面活性剤等の各種有機薬品
	その他	キレート剤、グラウト材料等、上記に属さない化学薬品
機能材事業	包装関連商品	フィルム、容器、包装関連機器等の包装に関連する各種商品
	合成樹脂関連商品	樹脂原料、添加剤、成型品等の合成樹脂に関する各種商品
	設備・工事・産業材料	汎用機械、生産用機械等の各種設備、付帯工事及びエレクトロニクス、建築向け等の産業材料
	その他	雑貨品等、上記に属さない工業用資材等
その他事業	連結子会社 8 社	ソーダニッカビジネスサポート(株)、曹達日化商貿(上海)有限公司、PT. SODA NIKKA INDONESIA、(株)日本包装、SODA NIKKA VIETNAM CO., LTD.、モリス(株)、(株)日進、(有)野津善助商店
	賃貸収入	保有動産・不動産等の賃貸による収入

**【化学品事業】**

売上高は前年同期に比べ16.4%増の30,990百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ20.1%増の2,246百万円となりました。セグメント利益への影響を基準とした、商品群別の取引推移等は以下のとおりであります。

ソーダ関連薬品は好調に推移いたしました。主力商品のか性ソーダは、食品業界における需要増加や商品の価格改定等により、塩酸はエレクトロニクス業界及び化学業界における需要増加や商品の価格改定等により取引増加となりました。また重炭酸ソーダは清掃工場や日用品業界における需要増加により取引増加となりました。

その他の無機薬品は好調に推移いたしました。カリウム化合物は原料市況の高騰により各業界向けで取引増加となりました。また鉄化合物は化粧品需要の回復に伴い取引増加となったほか、アルミニウム化合物は自治体向け水質処理剤の新規受注等により取引増加となりました。

有機薬品は好調に推移いたしました。界面活性剤は日用品業界向けの販売シェア拡大により取引増加となりました。またフッ素系溶剤は金属の脱脂洗浄や溶剤用途での販売数量増加により、高分子凝集剤は製紙業界の需要増加により取引増加となりました。

上記以外のその他の商品群は好調に推移いたしました。トイレタリー関連商品は新規商品の受注により取引増加となりました。

**【機能材事業】**

売上高は前年同期に比べ10.8%増の10,228百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ20.3%増の589百万円となりました。セグメント利益への影響を基準とした、商品群別の取引推移等は以下のとおりであります。

包装関連商品は好調に推移いたしました。複合フィルムは環境配慮型の高付加価値商品の販売推進や各商品の価格改定等により、また包装フィルム・シートはアルミ箔の需給改善や新規・既存取引の受注拡大により取引増加となりました。一方で包装関連機器は前年同期の食品業界向けのスポット取引分が減少となりました。

合成樹脂関連商品は好調に推移いたしました。工業用製品は化学業界や食品業界向けの設備用樹脂部材等の受注により取引増加となりました。またガラス長繊維は国内でのロジスティクス機能の強化に伴い樹脂業界向けの取引が増加となり、ポリエチレン樹脂は食品業界や樹脂加工業界の需要回復及び販売シェア拡大により取引増加となりました。

設備・工事・産業材料は堅調に推移いたしました。機械器具設置工事は案件増加となりましたが、化学装置関連機器は案件減少となりました。

**【その他事業】**

売上高は前年同期に比べ9.8%増の5,559百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ99.9%増の192百万円となりました。

**(2) 財政状態に関する説明****【財政状態の分析】**

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ10,608百万円増加いたしました。

増減の主なものは資産の部では、現金及び預金が712百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が9,428百万円それぞれ増加いたしました。負債の部では、支払手形及び買掛金が8,910百万円、短期借入金が1,433百万円それぞれ増加いたしました。純資産の部では自己株式が737百万円、その他有価証券評価差額金が325百万円それぞれ減少いたしました。

**(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明**

2023年3月期の通期の連結業績予想につきましては、2022年11月4日付公表の数値に変更はありません。当期は中期経営計画最終年度にあたり、目標とする経営指標の達成が見込まれており、2022年12月19日開催の取締役会において、目標達成に貢献してきた当社及びグループ会社の従業員への株式付与を決議させて頂きました。それらに加え、目標とする経営指標の2期連続達成が見込まれることから、利益計画の達成状況を勘案し、特別配当の実施を検討しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,482	8,195
受取手形、売掛金及び契約資産	35,903	45,332
商品及び製品	1,266	1,586
その他	674	740
貸倒引当金	△112	△119
流動資産合計	45,213	55,735
固定資産		
有形固定資産	2,191	2,842
無形固定資産	210	145
投資その他の資産		
投資有価証券	12,471	11,982
破産更生債権等	12	5
その他	769	758
貸倒引当金	△14	△6
投資その他の資産合計	13,239	12,740
固定資産合計	15,641	15,728
資産合計	60,854	71,463

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	27,627	36,538
短期借入金	2,766	4,200
未払法人税等	314	292
契約負債	231	128
引当金	338	221
その他	598	776
流動負債合計	31,877	42,157
固定負債		
繰延税金負債	1,653	1,539
退職給付に係る負債	1,234	1,284
その他	859	818
固定負債合計	3,747	3,642
負債合計	35,625	45,799
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,762	3,762
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	13,892	13,812
自己株式	△930	△192
株主資本合計	19,841	20,528
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,171	4,818
繰延ヘッジ損益	3	△1
土地再評価差額金	198	196
為替換算調整勘定	69	141
退職給付に係る調整累計額	△57	△50
その他の包括利益累計額合計	5,388	5,135
純資産合計	25,229	25,663
負債純資産合計	60,851	71,463

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	40,925	46,777
売上原価	35,456	40,599
売上総利益	5,468	6,177
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	978	970
給料及び手当	1,650	1,719
賞与引当金繰入額	163	173
役員賞与引当金繰入額	18	24
退職給付費用	79	105
その他	1,553	1,702
販売費及び一般管理費合計	4,443	4,694
営業利益	1,025	1,483
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	294	348
その他	57	47
営業外収益合計	353	397
営業外費用		
支払利息	21	17
シンジケートローン手数料	87	9
その他	18	3
営業外費用合計	127	30
経常利益	1,251	1,850
特別利益		
固定資産売却益	-	19
負ののれん発生益	90	-
投資有価証券売却益	183	41
移転補償金	-	30
特別利益合計	273	90
特別損失		
損害補償損失引当金繰入額	14	-
投資有価証券評価損	25	-
事務所移転費用	-	11
特別損失合計	40	11
税金等調整前四半期純利益	1,484	1,929
法人税、住民税及び事業税	343	555
法人税等調整額	94	48
法人税等合計	437	604
四半期純利益	1,047	1,325
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,047	1,325



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,047	1,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△152	△325
繰延ヘッジ損益	△5	△5
為替換算調整勘定	37	72
退職給付に係る調整額	8	7
その他の包括利益合計	△111	△251
四半期包括利益	935	1,073
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	935	1,073
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

当社は、2022年5月10日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、2022年5月31日付で自己株式1,000,000株を消却しております。

この結果、当連結会計年度において、自己株式が715百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が192百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	化学品 事業	機能材 事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	26,634	9,229	5,061	40,925	—	40,925
セグメント間の内部 売上高又は振替高	108	614	844	1,567	△ 1,567	—
計	26,743	9,844	5,905	42,493	△ 1,567	40,925
セグメント利益	1,870	490	96	2,456	△ 1,431	1,025

(注) 1.セグメント利益の調整額△1,431百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「その他事業」のセグメントにおいて、有限会社野津善助商店の株式を取得し連結子会社としたことにより、負ののれん発生益を認識しております。当該事項による負ののれん発生益の計上額は、90百万円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	化学品 事業	機能材 事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	30,990	10,228	5,559	46,777	—	46,777
セグメント間の内部 売上高又は振替高	107	786	1,118	2,012	△2,012	—
計	31,097	11,014	6,677	48,790	△ 2,012	46,777
セグメント利益	2,246	589	192	3,028	△ 1,544	1,483

(注) 1.セグメント利益の調整額△1,544百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。